

事は當然に、加盟組合の團體数が名簿上から減らされ、聯合會が單一の地方組合に組織され、地方組合が解體整理されることを伴ふが、これらは、全勞の組織勢力や加盟團體の實力減退を意味するものでは斷じてない。全勞は、我國労働組合の通弊たる形式主義や誇張や自己満足や實力の伴はない宣傳主義を排し、自ら率先して、これを清算すべく決意してゐるので、それが本年度に於て着々効果を果してゐるので。

(木) 全國労働の組織現勢

我等の組織活動は本年に於て最も努力した所で、全國體共に多少共陣容の擴大を見た。しかし、一面に於て、全勞の内部差別整理の方針の徹底と共に、形式的な組合の解體などを斷行したので、發表上に於ては、昨年度の七聯合會、四〇組合、四五、八〇三名(内女八三八三名)に比して、本年度は七聯合會、四七組合、四二、一三六名(内女六、四六二名)となつてゐる。

(三) 教育部

本年度の教育運動は主として非常時批判、インフレ賃上闘争の線に況ふて行ひ、研究会、茶話會、講習會及全勞新聞等によつて運動を展開した。  
一、メーデー前の教育——メーデー前に於ては、メーデーの準備闘争に合流して全國的に茶話會研究会を開つた。

二、夏期教育講座運動——系統立つた教育運動として夏期教育運動を指令し、全國的に運動を起したが、東京聯合會は最もよく活用實踐した。  
三、労働學校——全勞經營の労働學校はないが、大阪労働學校(大阪)が「プロレタリア政治學校(東京)」「日本協同組合學校(東京新設)」などには積極的に参加してゐる。  
四、其他——時事問題に對しては、全勞新聞、組合聯合會等に於て徹底を期した。

(四) 出版部

全國労働新聞第四十七号より第五十七号迄發行。その内號外一回(七月五日)發行した。メーデーに際しては宣傳パンフレット「メーデー」を發行した。

(五) 青年部

青年部細則は未完成なるも、地方聯合會青年部の確立に着手し、その促進に努力中である。

(六) 婦人部

一、根岸精神病院争議及大阪松竹レビニュー争議を初め婦人の参加せる争議には社會大衆婦人同盟と協力して積極的に活動した。  
二、またこれらの闘争を通じて婦人組合員の増加等に鑑み全

加盟組合現勢一覽 (昭和八年八月現在)

組合名	創立	所在地	支部数	組合員数	責任者
全勞聯合労働組合	昭・三・七	福井縣敦賀町新築町	六	不詳	山口小太郎
京都統一労働組合	昭・八・八	京都市上京區室町通立寶	五	不詳	辻井民之助
和歌山統一労働組合	昭・八・二	和歌山市南汀町一	一	二	雪下健一
滋賀化學一般産業統一労働組合	昭・八・二	大津市石山島居川町一	五	三	元持佐太郎
中部映畫同人組合	昭・六・六	名古屋市中區中春ビル	三	三	赤坂幸造
神奈川労働組合準備會	昭・七・二		五	三	天満芳太郎
栃木縣聯合會	昭・三・六	栃木縣鹿沼市上田町	三	三	石山寅吉
郡山労働組合	大・五・七	郡山市古館三三	二	一	田中利勝
東北合同労働組合	昭・三・三	八戸市古常泉下一二	二	九	西村菊次郎
函館地方労働組合協議會	昭・七・三	函館市大森町六四	四	一	鶴本徳太郎
計	一四七	七聯合會	總組合員	二二、三三	六、四三